

# 自己改革の取り組みと成果

JA遠州中央は、自主・自立の協同組合として、自ら改革に取り組んでいます。一方、政府は農業の成長産業化・競争力の強化を掲げて農協改革を進めていますが、その施策は必ずしも生産現場の声を反映しているとは言いきれません。

改革の取り組みは、組合員の皆さまに評価いただいて初めて成果となります。この資料では、これまでの当JAの取組状況について報告します。今後も、自己改革を進めるとともに、お伝えするよう努めてまいります。

## 生産資材価格の引き下げと低コスト生産の支援

### 「生産コストの削減」

#### 取組内容

当JAでは、仕入業者の選定やスケールメリットを生かした取引先との交渉を行ない、生産コストの低減に努めています。

**肥料**では、遠州中央独自に推奨する銘柄に集約しました。仕入れる肥料のロットを増やすことで、スケールメリット（規模の経済効果）を受けやすくし、価格の引き下げを実現しています。

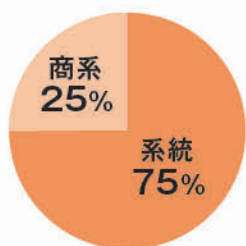
**農薬**では、仕入れ業者ごとに、各品目の仕入れ価格の提示を求め、条件が有利な取引先を選定することで価格の引き下げを実現しています。

また、組合員の声をもとに、営農指導員が中心となって、茶樹に使用する肥料「遠中サマーコート」の成分や製造方法を見直し、リニューアルしました。それにより、価格を引き下げることができました。

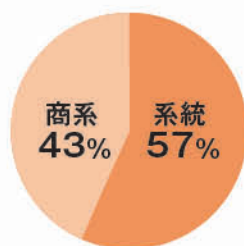


今後も競合する店の価格調査を行ない、価格交渉を強化することで、農業の生産コスト引き下げに貢献します。

平成28年度  
肥料仕入れ先



平成28年度  
農薬仕入れ先



仕入れ業者はJAグループからの系統仕入れに限らず、仕入れ条件を見定めた上で業者選定をしています。

#### 成果

平成28年度 **価格引き下げ**を実施しました。

生産資材について、農薬46品目、肥料16品目を特別価格として引き下げました。平成28年度肥料売上は前年と比較し、12,760袋増加するなど、生産者から取り組みへの一定の評価を得てきました。

#### 【対象肥料】

最大値下げ率16.9%  
平均値下げ率 8.7%

#### 【対象農薬】

最大値下げ率27.3%  
平均値下げ率16.1%

# 産地力強化と担い手づくり

## 「生産部会の強化」

### 取組内容

農業者の所得向上のためには農業生産技術を高めたり、機械化を進めたりして効率的な農業経営に変えていくことが重要です。

部会を通じた生産対策として、白ネギの生産から出荷まで自己完結できる大型農家を目指す「白ネギ機械化」や、イチゴの生産における労力の軽減や収量の向上を目指して、「IPM(総合的病害虫管理)」や「農薬炭酸ガスいちごハダニ殺虫システム」などの新技術の導入を支援する「イチゴ担い手対策」などへの助成を行なう、農業振興関連事業を実施してきました。



また、新規就農者をサポートし、将来の管内農業の担い手を育成する目的で、「ニューファーマーサポート事業」を行なっています。

就農1年目にJAで購入した肥料・農薬・梱包資材等や(株)ジェイエイ遠中サービスで購入した農業機械の購入費用に対して、最大100万円を助成しています。

### 成果

機械化や安定生産技術の導入が進み、**労働力の軽減**や**生産量の拡大**につながりました。

【農業振興関連事業 助成額の合計】

平成27年度 10,392千円

平成28年度 10,319千円

## 「共同販売の強化」

### 取組内容

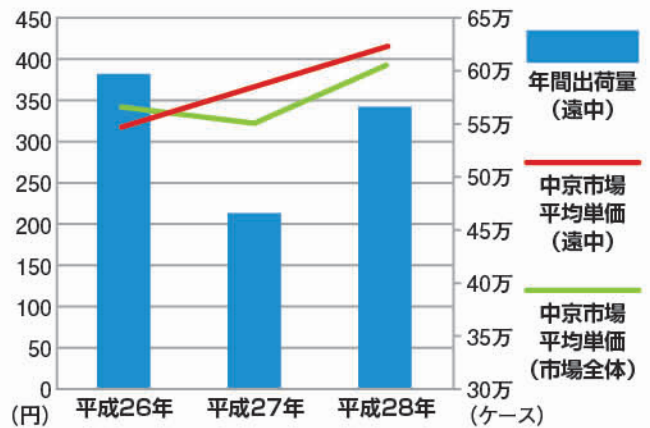
白ネギの共同販売において、以前は関西市場への出荷が主体でしたが、市況や流通環境を見定め、中京市場へシフトすることで、有利販売できる体制づくりを進めてきました。



### 成果

■中京市場での販売実績(白ネギ)

	平成26年	平成27年	平成28年
年間出荷量【遠中】(3キロ箱・ケース)	597,244	465,724	564,095
中京市場平均単価【遠中】(キロ単価・円)	319	365	415
中京市場平均単価【市場全体】(キロ単価・円)	341	323	393



### 取組内容

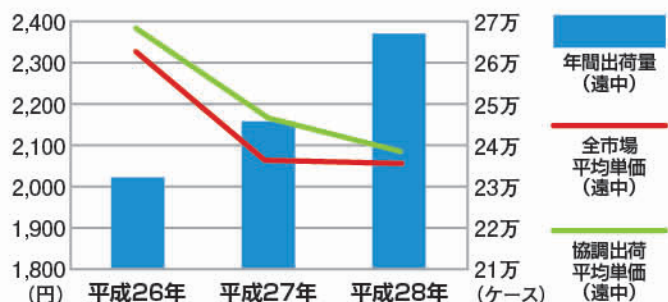
レタスの共同販売は、経済連を通じて静岡ブランドとして協調出荷を行なっています。関東の東京青果(株)・東京多摩青果(株)・横浜丸中青果(株)に集中することで、市場ごとの占有率を高め、有利販売を目指しています。



### 成果

■東京青果(株)・東京多摩青果(株)・横浜丸中青果(株)での販売実績(レタス)

	平成26年	平成27年	平成28年
年間出荷量【遠中】(ケース)	232,749	245,556	268,905
全市場平均単価【遠中】(1ケース単価・円)	2,320	2,087	2,061
協調出荷平均単価【遠中】(1ケース単価・円)	2,390	2,170	2,090



# 産地力強化と担い手づくり

## 「直接販売の強化」

### 取組内容

農業者の所得向上のために、生産物の**付加価値**を高めることが重要です。



平成21年から高糖度キャベツである「遠中天使のキャベツ」のブランド化に取り組んでいます。糖度保証を年内8度、年明け9度とし、糖度検査を実施してから出荷しています。

また、平成26年度から「業務・加工向けキャベツ」の直販も本格化し、平成28年度からは「遠中天使のキャベツ」と「業務・加工向けキャベツ」の統一組織であるキャベツ出荷者協議会を組織し、栽培から販売までの情報の共有や販売強化に取り組んでいます。



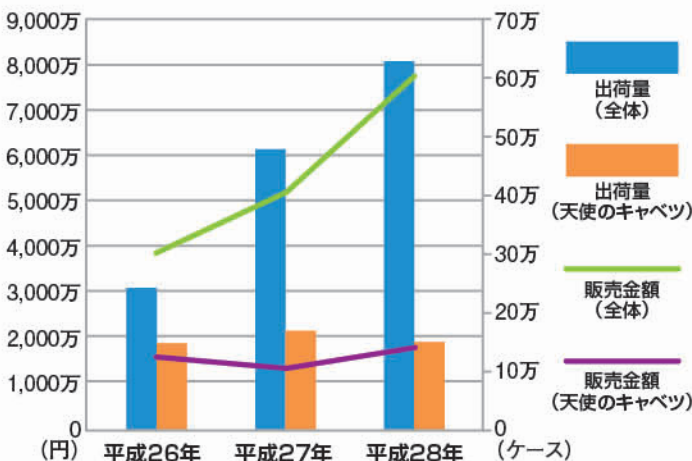
遠中天使のキャベツ栽培研究会の様子

### 成果

#### ■キャベツの出荷量と販売金額の推移

出荷量	平成26年	平成27年	平成28年
全体(ケース)	237,575	487,969	627,922
天使のキャベツ(ケース)	138,770	164,020	142,770

販売金額	平成26年	平成27年	平成28年
全体(円)	38,129,642	50,881,786	77,813,599
天使のキャベツ(円)	15,938,470	12,765,177	17,245,288



## 「新規作物の導入」

### 取組内容



中山間地の活性化や耕作放棄地対策として、エゴマプロジェクトを立ち上げました。エゴマの葉・実・パウダーなどの6次産業化の検討や、エゴマ油の販売方法、販路の研究、販売試験を実施していきます。

また、オリーブやギンナンへの樹園地転換による経営作物の複合化を進め、農家所得の安定化を目指しています。



エゴマ圃場の様子

### 生産者の声

- 作ったエゴマを食べることで血圧やコレステロール値が正常になった。近隣の方や友人にも栽培を勧めたい。
- 山間地でも獣害の心配がなく、耕作放棄地対策につながる。



搾油したエゴマ油を手にする生産者

### 成果

項目	平成27年	平成28年
栽培参加者	30名	63名
栽培面積	0.5ヘクタール	1.8ヘクタール
搾油用種実	180kg	500kg
搾油本数(100ml)	600本	1,700本



## 「営農指導員体制の強化」

### 取組内容

営農センターや営農店の営農指導員をe-commit(イーコミット)と命名し、「規模を拡大したい」「付加価値が高い作物を作りたい」「栽培作物の複合化を進めたい」といった意欲ある担い手農家に対して、**出向く体制を強化**しています。



タブレット端末を使い説明する営農指導員

平成28年度から営農指導員が担当する重点訪問先ごと、前年に対して販売金額20%増加を目指し、「生産者がすること」「JAがすること」を生産者と共に考え、共に実践する取り組みである「農業所得向上かるて」を始めました。

さらに、多様化するニーズにスピード感を持って、その場で対応できることを目指し、試験的にタブレット端末を使った営農指導支援ツールを導入しています。



### 成果

営農指導員と共に「農業所得向上かるて」を作成し、実践した重点訪問先144名のうち、販売金額が前年より20%増加した生産者が60名(全体の41%)となりました。今後も生産者と共に成長戦略を共に考え、共に実践する活動を続けていきます。

また、近年において管内生産者が、各種品評会にて農林水産大臣賞を獲得するなど、高度な技術力により産地のブランド化につながっています。

### 【過去5年の農林水産大臣賞受賞者】

- 茶 …………… 9件(団体を含む)
- 畜産 …………… 1名
- イチゴ …………… 1名
- 花 …………… 1名

## 「土壌・残留農薬分析の取り組み」

### 取組内容

当JAでは平成21年度から単独での分析センターを稼働させました。

**土壌分析**は、「作物の様子がおかしい」「収量・品質が上がらない」といった課題や原因の追究に有効です。また、**残留農薬分析**は安全安心な農産物を安定供給し、信頼される産地を維持するために重要となります。

### 成果

土壌分析により、生産者が土壌の化学性を把握することで、品質の向上や、生産コストの削減につながります。

残留農薬分析により、生産者の意識が明らかに変わりました。生産者が基準通りに農薬を使用していることを科学的に証明することで産地の信頼性維持につながっています。

## 「新規就農者支援」

### 取組内容

新しく農業を始めようとする場合には、栽培技術の習得や農地の確保、または機械や施設に必要な初期投資などさまざまな不安があります。そこで、行政などとも連携し、初めての方でも農業に参入しやすくするためのサポートをしています。

その一つとして、県の「がんばる新農業人支援事業」において、「(有)遠中農園」と「管内イチゴ生産者」の2か所で新規就農者の受け入れを行なっています。1年間、栽培技術や農業経営を実践的に学んだ後、管内での就農を促しています。

### 成果

平成25年度の就農者から始まり、上記支援事業を活用して、これまでに9名が就農しています。今後も新規就農者支援に取り組んでいきます。



支援事業を活用し就農した生産者